



# 生活衛生ニュース

June 2019  
Vol. 6 / No.6 (通巻66号)

発行：(株) 静環検査センター  
静岡県藤枝市高柳2310番地 tel.054-634-1000 fax.054-634-1010

## 安全と衛生に配慮した手袋の使い方 ～その使い捨て手袋は安全ですか?～

皆様は、日ごろの作業に手袋を使用していますか?手袋を使用している方への質問ですが、皆様は何のために手袋を使用していますか?手袋は使用方法を間違えると取り返しのつかない大きな事故に繋がる可能性があります。今回は手袋の使用方法についてお話をしたいと思います。

### 1. 手袋の使用目的

手袋を使用する目的は様々であり、用途によって使い分けられています。日常生活では寒い日に防寒具として使用する方が多いと思いますが、今回は次の2つの目的に焦点をあててみようと思います。

まず、1つ目は自分の手を保護するためです。有害な物質を扱う際に、手袋を介することで直接的に触れず、自分自身を守ることが目的です。身近なところではトイレ掃除の際に使用する手袋がこれに当たります。

2つ目は触れる対象物の価値を守ったり、衛生的に保つためです。人間の手には様々なもの(特に微生物)が付着しており、素手で触ると対象物を汚染させてしまいます。清浄な手袋を着用することで、作業員由来の汚染が起らないようにすることが目的です。食品の調理作業で使用する手袋がこれに当たります。手袋は決められた方法で使用していると期待通りの効果が得られますが、使用方法を間違ってしまうと大きな事故に繋がります。

### 2. 手袋の着脱方法

ここでは手袋の推奨される着脱方法を使用目的毎に分けて説明したいと思います。大前提ですが手袋は使用目的に関わらず、1つの作業に限定して使用することが重要で、1つの手袋を様々な作業で使いまわすことは大変危険です。

#### (1) 手の保護

手を保護する目的で使用する手袋の着脱

方法を説明いたします。こちらの手袋は着用する際に注意点は特にありません。外す際に注意が必要となります。作業を行う際に手袋を着用したからといって直接手袋で有害な物質に触れることはほとんど無いと思います。大抵の場合は器具を用いて有害な物質を扱いますが、意図せず作業中の手袋表面に有害な物質が付着してしまう可能性が多々あります。作業が終了したら速やかに手袋を外してください。使い捨ての手袋を使用している場合は手袋表面に付着した有害物質が飛散しないように、手袋の表裏を逆にして外してください。外した後の手袋は手首の部分で結ぶと良いでしょう。

(写真1～5)

#### (2) 対象物の保護

次に、対象物を衛生的に保つ目的で使用する手袋の着脱方法を説明いたします。この場合には、手袋を着用する際、特に注意が必要です。清浄な状態の手袋を着用する際には手袋の表面(特に手のひら部分や指先部分)を素手で触れないよう着用する必要があります。手袋の手首付近を持ちながら着用してください(写真6～10)。

作業場から離れる場合等は手袋を外して、破棄してください。再度作業を行う際は新しい手袋を着用してください。外した手袋は使用中に汚染された可能性がありますので、使用後は先ほどと同様の方法(写真1～5)で破棄し

【次頁に続く】

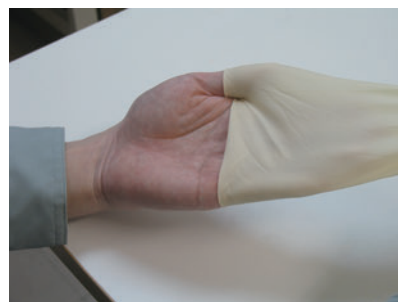


写真2 そのまま裏返しに外す



写真3 外した手袋を反対の手で持つ



写真4 手首付近から手袋を外し、先に外した手袋を包み込む



写真5 必要に応じて手首付近を結ぶ



写真1 手首付近から手袋を外す

## 【前頁からのつづき】

てください。

なお、実際の運用には各職場で定められた手順やルールに従って手袋を使用してください。

### 3. 手袋の間違った使用方法により引き起こされる事故

有害物質で汚染された可能性のある手袋を着用したまま、作業場を離れた場合に何が起こり得るか考えてみてください。有害物質で汚染されている手袋を着用したまま、事務所に帰り電話を使用してしまうと、電話に有害物質が付着してしまいます。次に何も知らない第三者がその電話を素手で使用するとうどうなりますか？電話を介して有害物質が第三者の手に付着してしまいます。第三者は自分の手が有害物質で汚染されていることなど知る由もありません。そのままお菓子などの軽食を口にした場合、体内に有



写真6 赤丸の部分は触ってはいけない

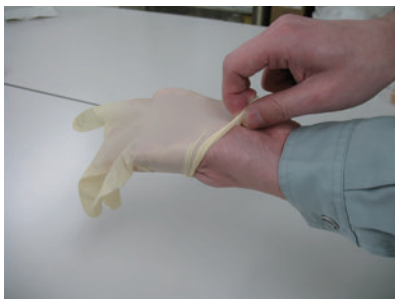


写真7 手首付近をもって着用する

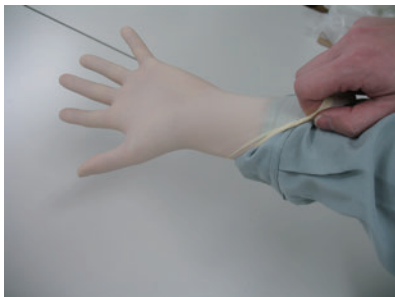


写真8 手首部分のみを引張る

### 表 手袋の着用・交換の目安について…(調理作業場での例)

・トイレの後は必ず
・ずれにくいピッタリ手袋を使用する
・食品に直接触れる作業を行う前
・微生物の汚染源となるおそれのある食品等に触れたとき
・生のままで提供する食材や調理済み食品を取扱う前(盛付け作業時)
・汚染作業から非汚染作業に変更になったとき
・手荒れ、傷がある食品取扱者は必ず着用する
・髪の毛や鼻などに触れたとき
・使用中に破れたときや指定された着用時間を経過したとき
・着用前に破れや汚れなどを目視で確認(異物混入や細菌汚染のもと)
・一度使用した手袋の使い回しはしない

害物質を取り込んでしまいます。まれに、事務所などの手袋着用義務のある作業空間以外で手袋を着用したままの方を見かけますが、そのようなときは外しましょう。

次に、清浄な手袋を使用した場合ですが、清浄な手袋も作業するにつれて汚染されていく可能性があります。定期的(作業内容や作業時間)に手袋の交換を行わないと清浄な状態が保てないため、効果がありません。ましてや清浄な手袋を着用したまま作業場を離れ(トイレや小休憩等)、戻って来てからもその手袋を使用していると手袋を着用する意味がありません。汚染された手袋を使用したまま調理・加工に携わると食品にまで汚染を広げてしまい、食中毒事故の危険性が高まります。



写真9 反対の手も同様に着用する



写真10 両手の手袋を着用してから指先のゆとりを調整する

使用方法を間違えると素手で触るより汚染してしまう場合もあります。一度外した手袋の再利用は汚染の可能性が高くなりますので、要注意です。

表には調理作業場を例として、手袋の着用・交換の目安を示しました。

手袋を着用することで満足するのではなく、手袋を着用する意味を良く考えて使用することを切望します。『手袋を着用していると大丈夫(安全・安心)』という考えが最も危険です。

### 4. まとめ

おそらく、この記事をご覧いただいている皆様はしっかりと職場の手順やルールに従って手袋を使用されていると思います。ただし、同じ職場(作業環境)に、たった一人でも手袋の間違った使い方をしている方がいると、その時点で事故の起こる可能性が高まります。自分自身の手袋の使用方法はもちろんですが、今一度職場内で正しく手袋が使用できているかを見直し、必要に応じて再教育をしてみたいかがでしょうか。

今回は手袋に焦点を当てて話を進めさせていただきましたが、他にも些細な注意点(マスクの着用や靴の履き替え等のルール化)から未然に防ぐことのできる事故(作業事故や食中毒)も沢山あります。小さなことからコツコツ積み重ね、より安全意識の高い職場を作り上げましょう。

(文責：池田 淳名)

### (参考文献)

- 1) 調理場における洗浄・消毒マニュアル Part2 文部科学省 HP
- 2) 使い捨て手袋の衛生管理 ふじのくに(静岡県公式HP)
- 3) 中山広樹：バイオ実験イラストレイテッド 3+ 本当にふえるPCR、秀潤社(1996)

## お問い合わせ

TEL 054-634-1000 FAX 054-634-1010  
http://www.seikankensa.co.jp

最新の分析機器と高精度な技術で暮らしの安心、安全をサポートする

# 株式会社 静環検査センター

静岡県藤枝市高柳2310番地